



全国大会に参加して

工藤 忠男

事です。

今年の全国大会は10月25日～27日まで3日間、男鹿半島・大潟ジオパークで行われました。大会のテーマは「あしたへ」で、次につながるジオパークを意識した大会でもありました。私の参加した「分科会」「ジオツアー」は市民の会の方が多く参加しました。それで、他の方が詳しく書いてくれますので。交流会のアトラクションや旅館の方から紹介された男鹿の民俗芸能「ナマハゲの太鼓ショウ」について感じたことを少し書きます。

ナマハゲの行事は毎年、大晦日の晩に男鹿半島全域で行われます。山の神の使者であるナマハゲは悪事に訓戒を与え、厄災を祓い、豊作・豊漁・古事をもたらす者として「怠け者はいねが。泣く子はいねが」と練り歩き、各家庭を巡る民俗行

「ナマハゲ太鼓ショウ」は、この地元の民俗行事に太鼓を加え大晦日だけではなく、いつでも見られるようにしたものです。交流会のアトラクションとして見る

ことが出来ましたが、旅館へ着くと旅館の方が、すぐにナマハゲ太鼓ショウはどうですか、と誘ってくださいます。夕食後にほとんどの泊まり客がこのショウを見に行ったようです。

ナマハゲのショウをやっている人は合計15人そのうち女性は4人との事でした。ステージに上がる人は女性1人を含みその内の5人、交代でやっているようです。年齢的には若く私達が見たショウの5人は高校生から23歳までの若い人で、民俗芸能が若い人にも受け継がれているのが良く分かります。ステージの太鼓は迫力があり、またリ

ダーが観客までも巻き込んでの司会をして、愉しめた満ち足りた時間でした。

地をつくものはジオパークと言われませんが、「地酒」や「地元の民俗芸能」もジオパークです。また、ジオパークの目的は「まろおこし」にある、ということをお聞きすることがあります。最もこれだけではないでしょうが、しかし、今回の大会のテーマが「あしたへ」です、明日へつながるものも感じました。

「食の饗れ」のジオツアーに参加しましたが、銚子の美味しい物を食べ歩きながらのジオツアーを巡るジオツアー



もあって面白く、以前から考えていたが、地元のスィーツを食べながらジオサイトを巡る女子会ジオツアーもあって良かった。とも考えました。

滝と奇岩クルーズに参加して

佐相章子

今回のジオツアーはクルーズに飛びついてすぐ決定26日は午後3時半バスで男鹿一景色の良い寒風山へ355mの火山、一面芝生で覆われ歩いてみたい美しい山でした。頂上からは大パノマラが見られ男鹿市の水源を賄う地下水がわき出るそうです。

ここから男鹿温泉の宿へ、交流会は市長も挨拶、翌日8時半出発一路入道崎へ、入道崎灯台は白黒の縞模様で日本の灯台50選に入っています。周りにはやはり芝生で広々としたならから

な起伏があり浜の植物、ツリガネニンジン、ウメバチ草、カワラナデシコなどが咲いていました。これから船に乗って海からの半島見学です。漁船なので一艘に10人ずつ動きだすと波も風もなく蒸気船の音にガイドさんのマイクは聞こえず船頭さんが上り登って大声で説明してくれました。今まで経験したことがない絶景、陸からは見えな

い奇岩があちこちにおもわず歓声を上げてしまいました。滝は大滝、白糸の滝、門前大滝、海からしか見られない光景です。岩もカシカネ洞、大棧橋、孔雀窟、蝙蝠窟2か所は中まで入り塩瀬崎で下船、昼食後館山崎へ、緑と白の凝灰岩（分りノタフ）を目の前で見られ感激しました。2000万年前の火山の噴出物多量の火山灰や火山礫が積み重なってできた岩石の一部が変形して緑色になっている所です。

有名なお宝は思ったより小さく、がっかりでした。初めての男鹿半島お天気に恵まれ満喫しました。

スズメに海岸清掃

11月12日（日）午前9時から、銚子ジオパーク推進市民の会とナルク銚子は、7月の清掃以来4か月ぶりに屏風ヶ浦付近のゴミ拾いを実施しました。

当日は真っ青に晴れ渡った青空の元での清掃、参加者は30名を超え、集めたゴミは30袋余りを数えました。午前10時からは無料見学会。一般のお客様10名をはじめ、千葉科学大の看護科の学生57名余りを屏風ヶ浦をご案内しました。学生は、「屏風ヶ浦の事だけでなく植物や鳥のことなど詳しい説明をありがとうございました」と感謝していました。